



えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.7

令和元年 7月6日

文責：校長 福島

星に願いを



明日は七夕です。学校の中にもあちらこちらに七夕の飾り付けがあり、子供たちの願い事が書かれた短冊が吊り下げられています。

願い事があるというのは素晴らしいことです。いろんな欲求があるから人は成長します。その欲求を望ましい方向に導くことや、願いをかなえる努力の大切さを教えることが私たち大人の役目です。

改めて子供たちの願い事を読んでみると、かわいいですね。1年生の短冊には「春日小学校の先生になれますように。」という願いもありました。6年生の教室にも短冊が飾られていました。「6年1組が、元気で明るいクラスになれますように。」「みんなから信頼される、歴史に残る6年生になれますように。」そんな願いがありました。

1年生はみんな自分のことです。6年生になると、回りのことを考え、集団に貢献することに価値を感じるようになります。社会性が育まれるということです。こうして考えると、小学校の6年間の学びというものは本当に大きなものです。学校では、日々人との関わりの中で多くのことを学んでいます。うまくいくときもあればトラブルもあります。うまくいく人もいればそうではない人もいます。そのすべてが貴重な学びの場です。

春日小学校はコミュニティ・スクールとして家庭・地域も一体となって子供を育てています。コミュニティ・スクールの究極の目標は、社会の一員として、社会をつくることができるようにすることです。「短冊に書かれたかわいい願いがやがて将来の夢となり、社会人として未来社会を創っていくことにつなげたい！」これが私の願いです。

明日は星が見えるといいですね。親子で空を見上げてみませんか。